

車の自動運転には、課題がいくつもあるらしい。その中の1つは、事故やトラブルがあった時に、路肩に寄って安全に止められるかどうか・・・と聞いたことがある▼先日、新幹線の連結が外れるという出来事があった。外れたことが問題ではなく、システム上の不具合があったことが問題ではないかと思う。不具合によって安全に止めるためのシステムが働き、連結が外れた。だから、うまく外れて、止まってよかった。と思っている人もいるかもしれない▼1年生の教室を覗いたら、漢字のテストをしていた。ひらがなやカタカナを覚えていた子どもが、漢字テストである。小学校で行うテストは、トラブルではないが、「どこが間違えたのか」「どう間違えたのか」を大切にする▼ポジティブすぎるかもしれないが、学期末に保護者にお渡しする通知表もそう考えている。担任教師は、保護者に子どもを叱る材料を提供しているわけではない。むしろその逆だ▼修了式の日には、時間のある限り子どもと対面し、通知表をもとに、よいところを価値づけ、がんばってほしいことに勇気づけをする。その一方で、担任は、自分の指導力を振り返り、次に生かすのだ▼学校は、何が分からないのか、できないのかを知る場所であり、失敗する場所である。40点しか取れなかったら60点分努力すればよい。でも、やっぱり後の努力は少ない方がいい。学校の頑張り所。